

# 子どもの目でみた？“としま”の今があふれる 映像教育 プロジェクトが熱い！



みんなは  
音声さんやりたい

## みんな

誰よりも池袋を愛するさすらいの池袋プロガー。地域ブログポータルサイト「みんな池袋開拓史」(HP:ikebukuro.areablog.jp/mintan)で、グルメやイベント、街づくりなどタウン情報を発信中!

豊島区では小中学生が自分たちの住む地域をテーマに映像製作をしています。子どもの作品だからと侮るなかれ。大人も思わず唸る鋭い切り口の作品が多数。今回は「としま映像教育プロジェクト」を紹介します。

撮影の裏話からみえた  
子どもと大人の深いイ話

先日、西池袋にあるシェアオフィス「コーバ・池袋」で上映会が開かれ、3年間の変遷を振り返り過去の秀作の数々やエピソードなどが紹介されました。

映像作品が作られる時には撮影を教える人や学校の先生、映像の被写体となる街の人など、様々な人と関わります。その過程で子ども達の自由な発想やハプニングもいえる偶発の出来事にも助けられ面白い作品が生み出されているようです。

サンシャイン60にまつわる怖い噂話を調べようという子ども達はインタビュ取材を試み、偶然にも街の人から第二次世界大戦の戦犯の話聞くことになりました。戦争を知らない子ども達は、まさか自分達の住む街に戦争にまつわる場所があったとは思わなかったでしょう。想定外のドキュメンタリー作品にワクワクしました。

子ども達の視点で切り取る豊島区の物語は、先の読めない楽しさと驚きがありとても新鮮でした。周囲の大人たちもどこに転がるか分からない不安定さを楽しんで受け



「映像」と「学び」  
豊島区の目指すものは？

2016年より国際アート・カルチャー都市構想の一環として豊島区が実施している「としま映像教育プロジェクト」

夏休み期間に豊島区の小中学生がプロの映像作家に映像製作を学び、グループで取り上げるテーマを話し合いながら作品を製



作します。製作した作品は上映会が行われ、「日本こども映画コンクール」にも応募、中には受賞作品も生まれるなどクオリティの高い作品が作られています。参加した子ども達は主体的に映像制作に携わり周囲と対話することを学び、またメディアの発信する情報というものを理解し、自らが発信する能力を身に付けることができます。

豊島区は映像制作を通じて地域の魅力を再発見し、まちづくりの担い手として貢献できる子ども達の育成を支援しています。

止めているようにも感じられ、普段は隠れた「大人の本音」も撮影されてしまっている感じがいいですね。

カメラを通して気づく  
街の可能性

映像製作を通して子ども達自身による主体的な学びを促す教育手法を「シネテラシー」といいます。オーストラリアではシネテラシーを活用し、移民を数多く受け入れる国の背景から、多様な文化や宗教などを理解し学びにつなげる教育を実施しています。製作に関わる全ての人達がそれぞれ違った視点を持ちながらお互いの存在を認め合い、共通テーマの作品を作成するために協力するということ。それは、社会課題を解決する一助につながると考えられているからです。豊島区の街をカメラ越しに見ることで、子供たちは普段は感じなかった街の姿、魅力、課題、街の未来に気づくかもしれません。私たちも映像作品を観ながら改めて豊島区ってどんな街か感じたいですね。